



岐阜市民病院
乳腺外科部長
榎塚 登美男氏
(かしづか とみお)

昭和 59 年岐阜大学医学部卒業。同年岐阜大学医学部第二外科入局。
平成 10 年より岐阜市民病院乳腺外科勤務。
平成 14 年より現職。
日本乳癌学会乳腺専門医および評議員。
500-8513 岐阜市鹿島町 7-1
Tel : 058-251-1101
Fax : 058-252-1335
e-mail : tkashizuka@gmhosp.gifu.gifu.jp

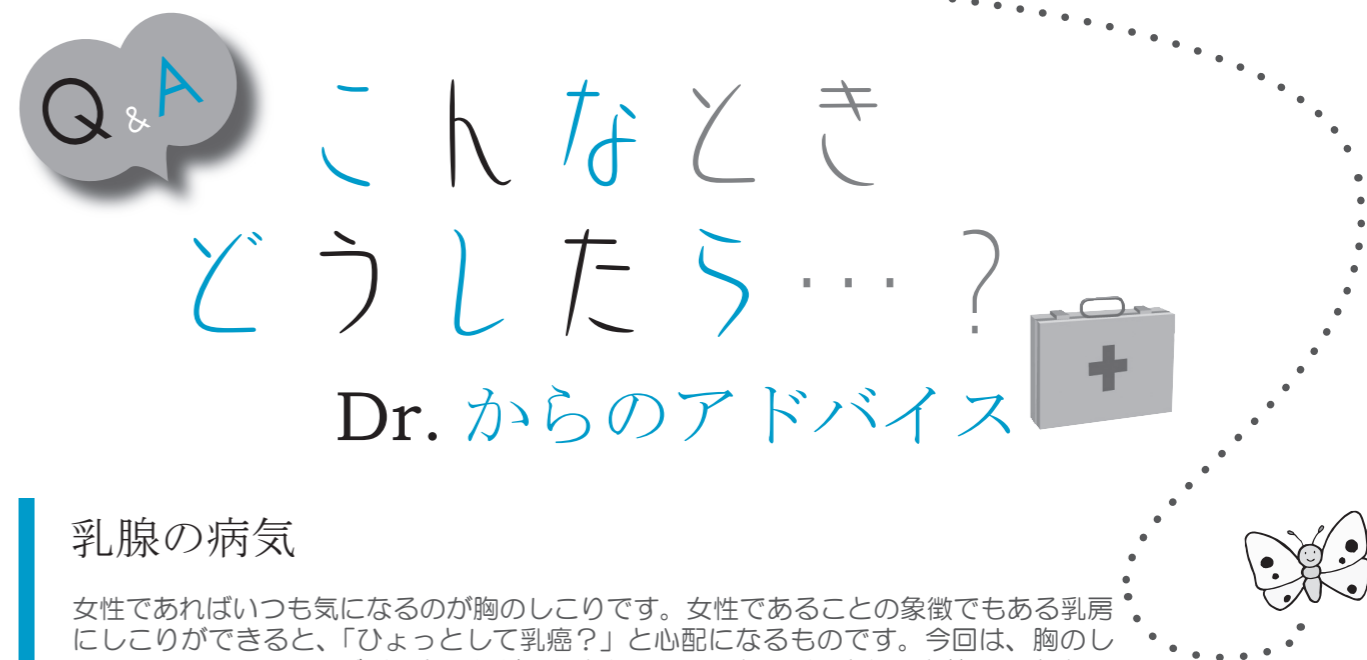
Q 17歳のC代さん、高校の部活の後に汗を拭いていると右の乳房に2cmほどのくりくりしたしこりを見つけました。帰宅後さっそく、お母さんに相談しました。「お母さん、お乳にしこりがあるんだけどうしよう。なんか大豆みたいにころころしてるんだけど、まさか乳がんなんてことないよね。」

A 17歳のお嬢さんでも乳房のしこりですから、お母さん、乳腺外科へ連れて行ってあげてください。触診では、境界がはっきりしていますので、まず良

性疾患です。また10代での乳がんも稀ですから安心してください。検査としては、超音波検査（エコー検査ともいいます）をします。この検査は乳房の内部を断面として見る検査で、痛みも無く、レントゲンではないので被爆の心配もありません。特に30歳以下の若年者の乳房に適した検査です。検査結果は？横に長い楕円形のくりつとした腫瘤でしたね。これは思春期によく発生する線維腺腫という良性の腫瘍で、稀に大きくなる場合は摘出しますが、一般的に治療はいりません。

Q 38歳のD子さん、左乳房に3cmのしこりを自覚して、ある外科を受診されました。マンモグラフィ検査とエコー検査を受け、悪性の疑いがあるので細胞を取って検査しようと言われたそうです。「細胞を取って言われましたけど、どうするんですか？痛くないですか？まさか乳房を切るんじゃないでしょうね？」

A 悪性の疑いがある場合は積極的に細胞の検査つまり細胞診や組織診をお勧めします。細胞診は、細い針を腫瘍に刺して細胞を吸引採取しますが（穿刺吸引細胞診といいます）、注射程度の痛みしかなく、もちろん傷はつきません。組織診には十分な量の細胞の塊り（組織）を採取する必要があります。少し太めの針を刺します（針生検といいます）。局所麻酔をして行い、数mm程の傷はつきますがすこしすると目立たなくなりま



乳腺の病気

女性であればいつも気になるのが胸のしこりです。女性であることの象徴でもある乳房にしこりができると、「ひょっとして乳癌？」と心配になるものです。今回は、胸のしこりについていろいろご質問をいただいた中から、よくある質問を例にお答えします。

少し乳房にしこりがあるような…まさか乳がん？

Q 47歳のA子さん、最近友人のB子さんが乳がんで手術を受けたと聞いてショックです。「わたしも乳がんが心配になってきました。そういえば少し乳房が痛むし、今まで一度も検査をうけたことがなくて。乳がん検診を受けたいんですけど、どうすればいいですか。やっぱり婦人科へ行くんですか？」

A 乳がん検診として、40歳以上の方にはマンモグラフィ併用の乳がん検診が推奨されています。マンモグラフィとは乳房のレントゲン検査のことで、乳房を軽くはさんで圧迫して撮影します。乳がんの腫瘍（しこり）や石灰化の描出にすぐれていて、特にしこりを形成せず石灰化だけで発見される非浸潤がんというごく早期の乳がんの発見に有用です。各自治体や職場の乳がん検診を利用されると思いますが、A子さんのように症状がある人は、乳腺を専門に診察する乳腺科（乳腺外科）という科を受診してください。日本乳癌学会の専門医が対応いたします。